

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

2021/06/01

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは4月30日(水) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		5月28日現在 (矢印は3月末比)	6月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 109.85	⇒ 108.50 ~ 111.50
	膠着間の強い相場が続くが目先のリスクは上方向		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.219	↘ 1.20 ~ 1.23
	ユーロ・円 (円)	↗ 133.93	↘ 130.00 ~ 135.00
ECBの早期テーパリング観測が後退しユーロは下落			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.419	⇒ 1.38 ~ 1.44
	ポンド・円 (円)	↗ 155.83	⇒ 153.00 ~ 158.00
変異株の拡大に注意もタカ派的な英中銀がポンドを下支え			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 84.72	↗ 83.50 ~ 87.50
	NZドル・円 (円)	↗ 79.65	↗ 78.00 ~ 82.00
金融市場のリスク選考継続で底堅く推移			
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 29,149	↗ 28,500 ~ 30,500
	金融事態宣言は延長もワクチン接種のペースアップが好感		
	NYダウ (ドル)	↗ 34,529	↗ 33,500 ~ 35,800
	金利の安定や財政議論の進展期待から上昇		
長期 金利	日本 (%)	↘ 0.083	⇒ 0.04 ~ 0.16
	国内固有の要因乏しく、米金利なりの動きとなりやすい		
	米国 (%)	↘ 1.594	⇒ 1.45 ~ 1.75
	足元の物価上昇やテーパリングについての発言は織り込みが進む		

◆ 今月の注目ポイント

米経済動向とテーパリング議論に要注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	○	【米物価・雇用動向】6/4の雇用統計、6/10のCPIが注目される。前月CPIが大きく上振れたが一過性要因も強く、継続性と内容が重要。
		【国内ワクチン接種進捗】足元日本株の出遅れ目立つが要因の1つがワクチン接種の遅れ。接種体制は徐々に本格化しており、順調に進めば見直し要因ともなる。
金融 政策	◎	【FRB・ECBのテーパリング議論】6月は日米欧の中銀会合が予定される。注目は米国と欧州。米国はクラリダFRB副議長が資産買入縮小の検討開始に言及し、テーパリング議論の機運が高まっている。ただし検討にあたり重要となる雇用情勢は4月指標で減速、まだ見極めが必要な段階といえる。6月FOMCで大きく進捗するシナリオはメインではないだろう。一方、欧州では足元の景気回復期待でPEPPの買入縮小観測が高まっていたが、ここきてラガルド総裁を始め主要メンバーから政策変更を否定する発言が相次いだ。景気回復が十分でない状況でのユーロ高・欧州金利上昇に対しては警戒感も強い。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	↗ 16.8 ~ 17.5	レアル・円	↗ 20.5 ~ 21.5
バーツ・円	↘ 3.37 ~ 3.55	メキシコペソ・円	↗ 5.40 ~ 5.70
ルピア・円	↗ 0.75 ~ 0.80	ルーブル・円	↗ 1.48 ~ 1.55
ルピー・円	↘ 1.47 ~ 1.54		

◆ 今月の重要日程

1日(火) 米	5月ISM製造業	16日(水) 中	5月生産・小売・投資
4日(金) 米	5月雇用統計	16日(水) 米	FOMC(結果発表)
10日(木) 英	ECB理事会	18日(金) 日	日銀金融政策決定会合
10日(木) 米	5月CPI	23日(水) 欧	6月PMI
11日(金) 他	G7サミット(英、~13日)	24日(木) 英	BOE金融政策委員会
15日(火) 米	5月小売売上高	29日(火) 日	政井貴子日銀委員、任期満了

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

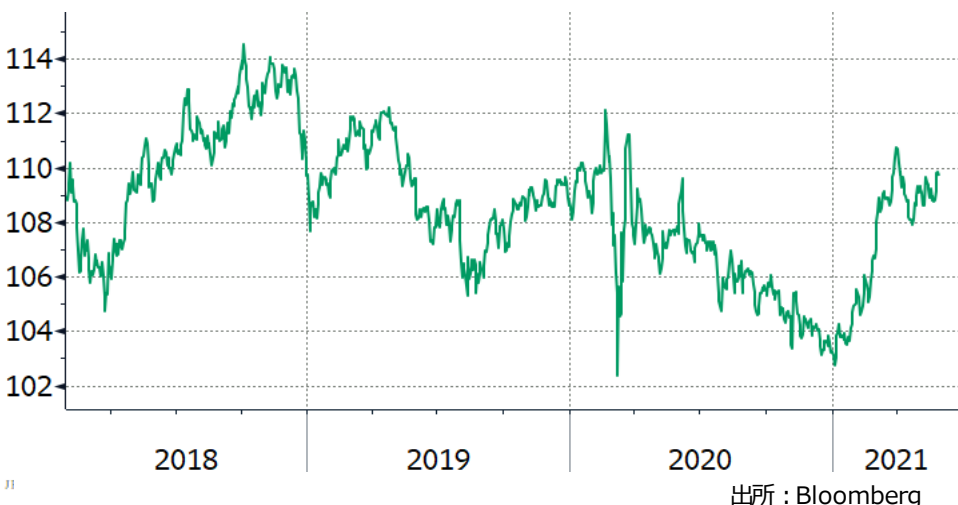
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

➡ ドル円は横ばい

108.50 – 111.50円

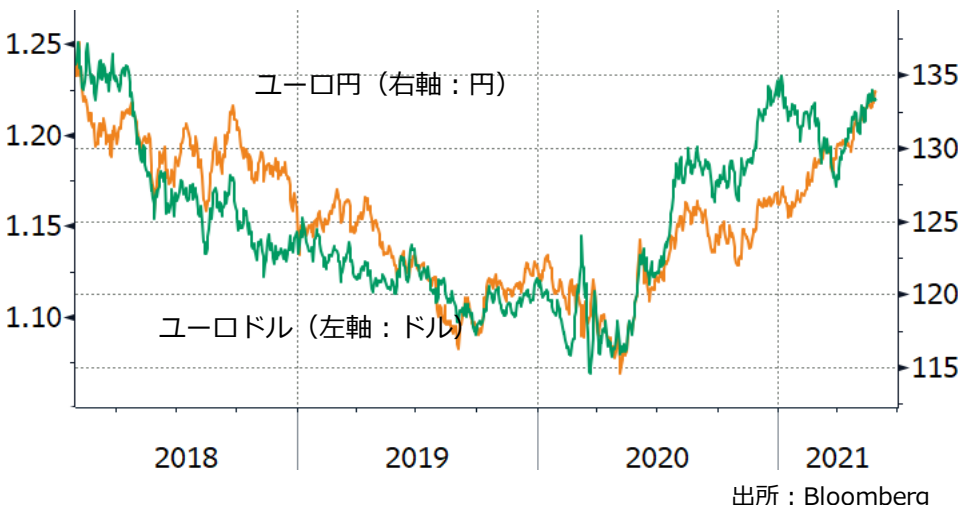
ドル円は引き続きもみ合い相場とみるがリスクは上方向と想定

5月のドル円相場は値幅が約1.5円と膠着感の強い相場となった。月前半はリスクセンチメントの改善を受けて、またコモディティ高による資源国通貨の上昇や欧州経済の見直しによるユーロ高の裏でドル安圧力が強かったものの、同時に円安も進行。リスク選好時には円も売られやすく、日本のワクチン接種の遅れによる景気回復懸念、日本株の出遅れは円売り材料となっている。

先行きも当面は相場環境に変化なく108-110円台を中心に膠着感の強い相場が続きやすいと想定しているが、目先の変動リスクは上方向に強いとみている。

このところのドル円は米長期金利との連動性が高い。米国では、景気回復を受けてFRB執行部からテーバリング議論の開始に向けた発言がなされている。6月FOMCを経て観測が強まれば米金利上昇を通じてドル円は上値を試す可能性。また、バイデン政権の長期経済プログラムも共和党との協議が実施されており、2022年会計年度の予算教書は6兆ドルと非常に大規模なものとなった。財政赤字も膨張も想定され米金利を低下しづらくする材料となる。

ユ ー ロ



ユーロドル

⬇ ユーロドルは下落

1.20 – 1.23ドル

ユーロ円

⬇ ユーロ円は下落

130.00 – 135.00円

ユーロドル、ユーロ円はともに下落を予想

5月のユーロは、ドルに対して上昇、円に対しても上昇となった。月初、予想を大きく下回った米雇用統計を受けたドル売りで、ユーロドルは4月の高値を超え、1.215後半まで上昇。予想以上の米CPIの上昇でユーロドルは一時売られたが、欧州主要国でワクチン接種が進展したことや経済正常化によるテーバリング観測からユーロが買われ、月を通してユーロは堅調に推移した。

6月のユーロは対ドル及び対円ともに下落と予想する。6月のECB理事会ではPEPP購入ベースが減速するかどうか注目を集めるが、直近複数のECB高官のハト派発言を受け、早期テーバリング観測が後退している。一方、テーバリングに言及した米FRB高官が複数人いるなかで、ユーロに比ベドルが選好される可能性が高いとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

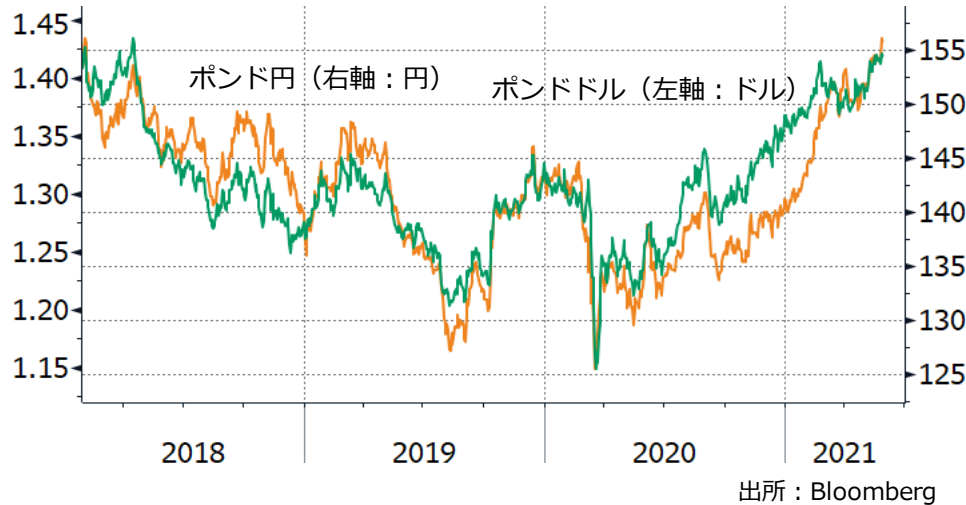


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

⇒ ポンドドルは横ばい

1.38 – 1.44ドル

ポンド円

⇒ ポンド円は横ばい

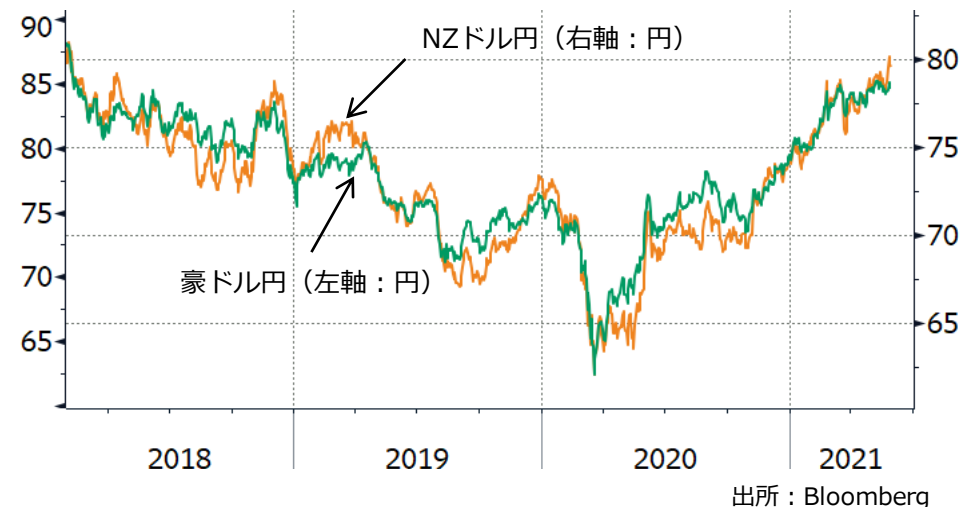
153.00 – 158.00円

ポンドドル、ポンド円はともに横ばいを予想

5月のポンドは対ドル、対円ともに上昇した。ワクチン接種の進展やロックダウンの段階的な解除がポンドの支援材料となり、ポンドは堅調に推移した。5月6日の英中銀金融政策決定会合は市場予想通りでポンドへの影響は限定的。スコットランドの議会選挙でスコットランド民族党が過半数に届かず、英国分裂リスクが後退したことから5月10日にポンドは大きく上昇した。その後、方向感がなく推移も、5月27日に英中銀メンバーの早期利上げ発言をうけ、ポンドは再び上昇した。

6月のポンドはドル及び円に対して横ばいを予想。ワクチン普及が進みロックダウンの解除が段階的に進められているが、イギリスではインド変異株の拡大も確認されており、経済正常化にブレーキをかける要因になる可能性がある。ロックダウン解除延期への懸念もありポンドの上値は重そう。一方、ややタカ派の英中銀はポンドの下支えになるだろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

⇒ 豪ドル円は上昇

83.50 – 87.50円

NZドル円

⇒ NZドル円は上昇

78.00 – 82.00円

豪ドル円、NZドル円は上昇を予想

5月のオセアニア通貨は月初にリスク選好ムードで上昇も、その後主要国株式が軟調となったことで上昇分を巻き戻す展開となった。豪ドル円は中国との対立激化も重石となり月間では小幅高。一方、NZドル円は5/26に行われたNZ中銀会合で金融政策を据え置きつつも、予想外に2022年の利上げを示唆したことを受けて大きく上昇、一時80円台に乗せた。

6月も金融市場は総じてリスク選好的な動きとみており、豪ドル円・NZドル円は底堅く推移しやすいと予想している。日本の景気出遅れ懸念による円安も押し上げ要因となろう。

スケジュールでは6/1に開催される豪中銀会合が注目されるが、豪中銀は量的緩和等の再延長等について7月会合で議論するとしており、今回は大きな材料にはならないとみられる。

一方順調な景気回復を続ける豪経済であるがコロナリスクの拡大には注意。南半球では感染拡大しやすい冬を迎え、ビクトリア州では5/28から短期ロックダウンも実施されている。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

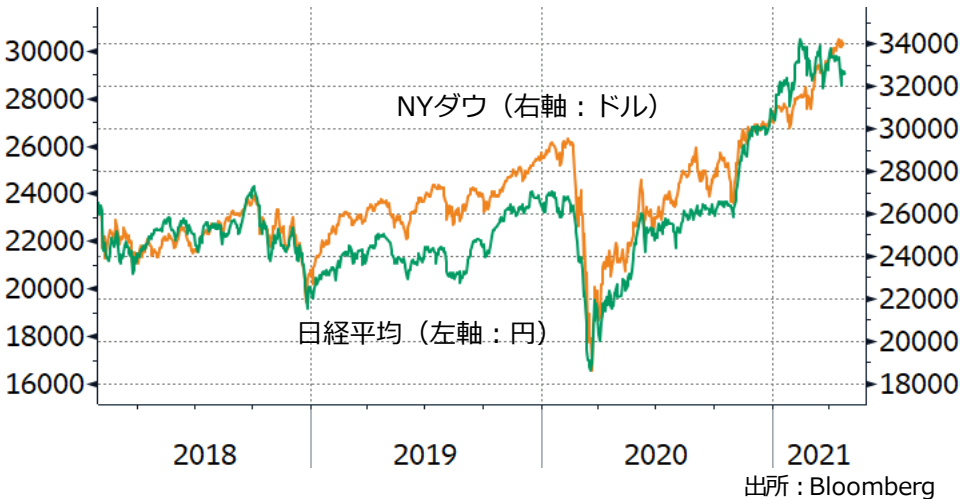
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は上昇

28,500 – 30,500円

日経平均は上昇を予想

5月の日本株は、上旬に3日で2,000円近くの下落となるなど肝を冷やす場面もあったが、その後は底堅い推移となり、月末には月初の水準を概ね取り戻した。今月の日本株は底堅い展開を予想。国内では緊急事態宣言の20日までの延長が決定したものの、政府の施策が奏功しワクチン接種がようやくペースアップしつつある。企業決算や指数の入れ替え等もこなし、あく抜け感も強い。引き続き米国の雇用物価指標や、米欧の中銀動向は注視したい。

NYダウ



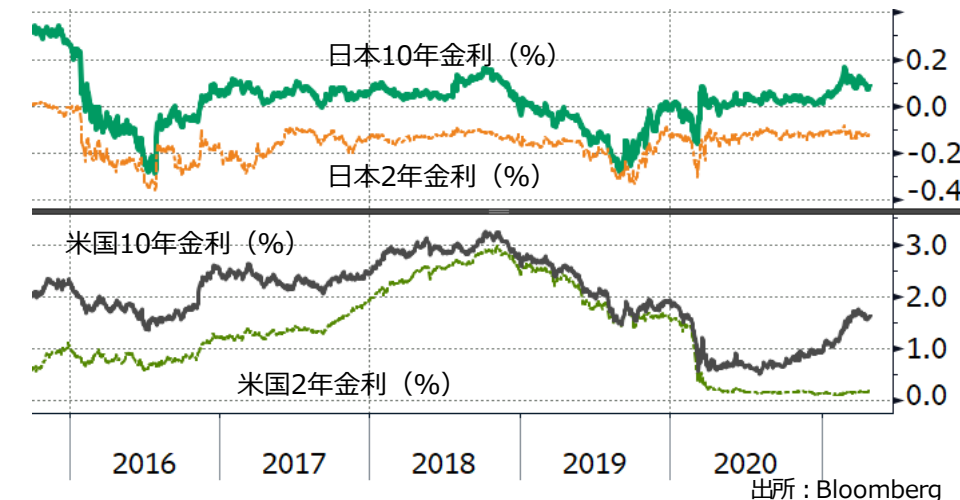
ダウは上昇

33,500 – 35,800ドル

NYダウは上昇を予想

ワクチン接種により経済の正常化が進む中で、引き続き米国の経済指標に注目。先月大幅に減速した雇用指標や、市場予想を大きく上振れた物価指標について、今月の数字が注目される。テーパリングについてはFRB高官による言及も相次いでおり、織り込みが進んでいる。金利が落ち着いた展開となれば株価への影響は限定的となろう。バイデン大統領のインフラ投資及び家計支援については引き続き超党派での議論が継続しており、良い進展があれば株価にポジティブ。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

0.04 – 0.16%

日本国債は金利横ばいを予想

3月の日銀の政策点検後10年金利のボラティリティは大幅に低下している。6月の国債買入スケジュールも大幅な変更は想定しづらく、引き続き国内固有の要因に乏しく米金利に連れた動きとなりそう。但し、米金利が上値を試しても0.2%近辺では誘導レンジ上限が意識され買いも入りやすいだろう。国内金利は引き続きレンジ内でのみみ合いとみる。

米国債10年



金利は横ばい

1.45 – 1.75%

米国債は金利横ばいを予想

5月は雇用統計の大幅な減速で米10年債は一時1.5%を割り込む場面もあったが、長続きせず。一方で物価指標の大幅な上振れやFRB高官のテーパリングへの前向きな言及を受けても金利上昇幅も限定的となっており、今月レンジでの推移が継続とみる。一方で前月大きく市場予想に乖離した雇用・物価指標や、FOMCでテーパリングへの具体的なスケジュール等に言及があるかは注目。また引き続きバイデン大統領による経済対策の議論の進展も注視したい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		5/28		6月の予想	5月のレビュー	6月の見通し
中国	人民元/円	17.26	➡	16.8~17.5	ドル人民元は月末にかけてドル安人民元高が進行し6.4を割り込んだ。加えて円安進行し人民元円は17円を突破し上値追いの展開となった。元高の背景は当局対応。一部で資源価格上昇抑制のために元高が望ましいとの見方が台頭。当局は資源高抑制のための元高誘導は否定しながらも、「上下双方向の変動が普通」とし、元高容認と受け止められた。	安定的な中国経済の回復基調や貿易黒字の拡大から人民元には先高感もある一方で、国有銀行のドル買いも入るなど当局も急激な元高は志向していないとみられる。輸出企業への悪影響が懸念される局面では介入も入るとみられ、人民元相場はじり高と予想。ただし米金融政策動向からドル高に転じた場合には元安に切り返す可能性もあり注意。
	ドル/人民元	6.37	➡	6.28~6.48		
タイ	バーツ/円	3.52	➡	3.37~3.55	ドルバーツは1ドル31バーツ台前半のレンジ内で推移した。ドル安圧力が強まる局面で31バーツに近付く場面もあったが、タイ国内のコロナ感染動向の悪化や、それに伴う景気先行き懸念が重石となった。1-3月期のGDPは前期からのプラス成長は確保したものの回復ペースは大きく鈍化、前年比ペースでは5四半期連続のマイナスとなっている。	タイバーツは下落しやすい展開を想定している。新型コロナウィルスの新規感染者数は過去最多を更新。昨年3月から続く非常事態宣言が7月末まで延長されるとともに、発出されている感染対策も同時期まで継続となった。秋以降計画されていた観光客受入再開も不透明感が強く、観光産業の比重大き同国経済に厳しい状況。ドル安弱まる局面ではドルバーツは上値を試すとみる。
	ドル/バーツ	31.25	➡	31.0~32.5		
インドネシア	ルピア/円	0.769	➡	0.75~0.80	5月のルピア相場はドル安地合いのなかで資源価格上昇も追い風となり買いが優勢となった。円も弱含み対円も上昇。5/25に行われたインドネシア中銀会合では3会合連続で3.5%の政策金利を据え置いた。同会合でペリー・ワルジョ総裁は将来的なデジタル・ルピアの発行計画を表明した。	ルピアはドル安地合いが続く中では、新興国通貨は総じて資金流入しやすく目先底堅く推移すると想定。ただし先行きには不透明感も強い。国内のコロナ感染者数はピーク時から落ち着いているものの、アジア諸国の感染拡大を受けて感染対策を強化している。経済回復も道半ばで政策支援なしには弱さが伺える状況。積極的な金融緩和方針からもルピア高の継続は難しいだろう。
	ドル/ルピア	14,285	➡	13,800~14,500		
インド	ルピー/円	1.52	➡	1.47~1.54	ルピーは終始買われる展開で対ドルで2%強の上昇、4月のコロナ感染状況の急速な悪化、中銀の金融緩和策を受けて下落した相場を巻き戻した。変異株の拡大により新型コロナ感染者数は引き続き高水準にあるものの、感染拡大ペースが鈍化しつつあることやワクチン接種加速への期待から買い戻しにつながった。	5月の買い戻しによりインドルピー相場は2・3月につけた高値に近付きつつあり、短期的なルピー上昇余地は限定的とみる。感染抑制策による目先の経済下振れ懸念は強く、再度の感染拡大リスクも残る。一方で中期的には外貨準備等のファンダメンタルズは新興国内では良好で、アフターコロナで有望な市場のインドへの資金流入から下値も限定的となろう。
	ドル/ルピー	72.45	➡	71.5~75.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

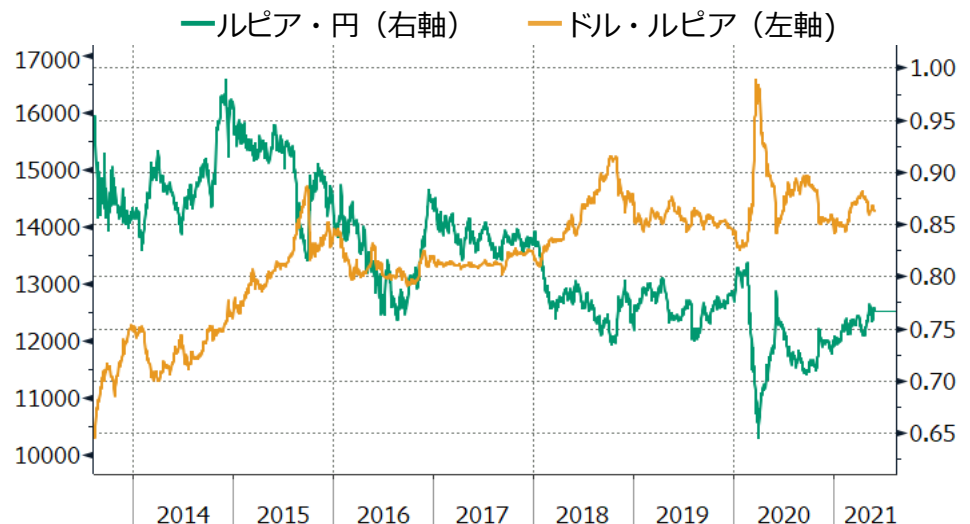
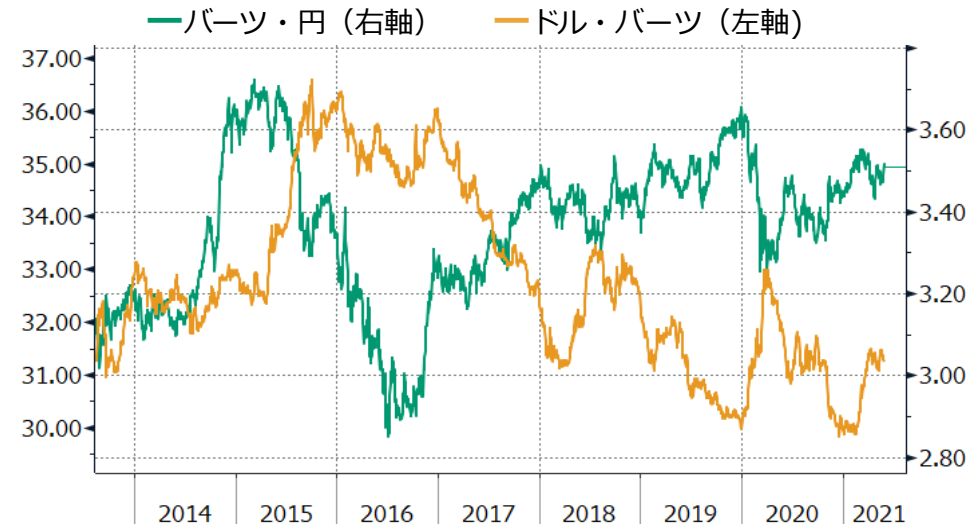
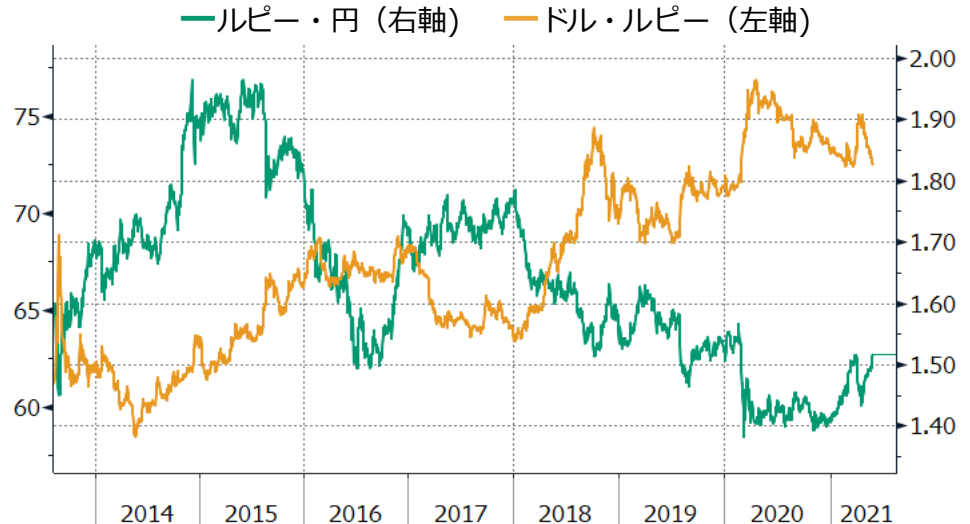
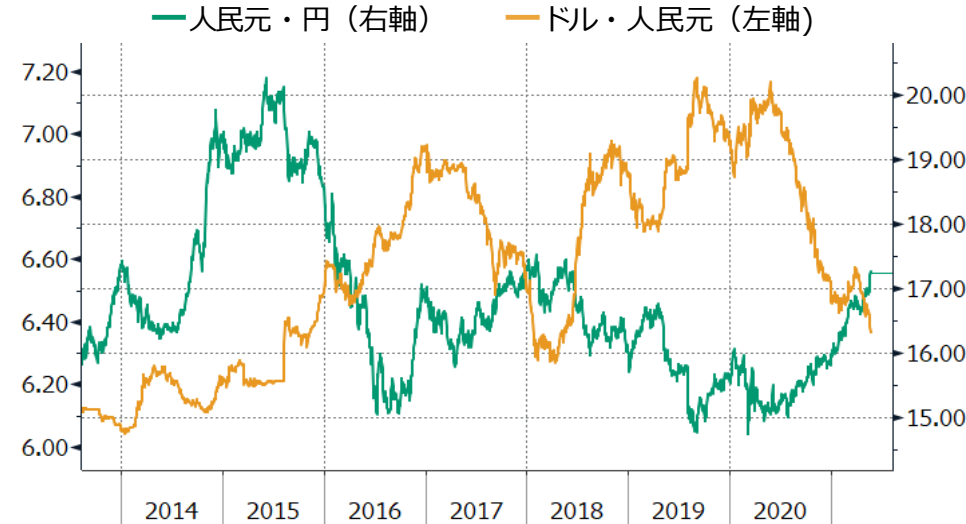
		5/28		6月の予想	5月のレビュー	6月の見通し
ブラジル	リアル/円	21.03	➡	20.5～21.5	5月のブラジルリアルは、ドル、円に対してともに上昇。5月5日にブラジル中央銀行が0.75%の利上げを実施したことや次回以降の会合で追加利上げを示唆したことを受けて、リアルは上昇した。それ以降、ドル高要因などで一時反落したものの、月末にかけてブラジル株式市場への資金流入からリアルも買われ堅調に推移した。	6月のブラジルリアルは引き続き上昇を予想。インフレを制御するため、6月16日のブラジル中央銀行の政策金利決定会合では追加利上げが実施される可能性が大きい。また、堅調な商品価格もリアルのサポート材料になるだろう。
	ドル/リアル	5.23	➡	5.00～5.35		
メキシコ	ペソ/円	5.51	➡	5.40～5.70	5月のメキシコペソは、ドル、円に対してともに上昇。5月13日にメキシコ中銀が政策金利を据え置いたが、インフレの加を認めたことが利上げ観測を高め、ペソが買われた。国際収支の改善もポジティブ材料となった。	6月のメキシコペソは上昇を予想。メキシコではコロナ感染者が落ち着きつつあり、経済指標にも引き続き改善が見られる。また、メキシコのインフレ率は中銀の目標値を大幅に超えており、先々の利上げへの期待が高まりやすいことからメキシコペソは上昇しやすい。
	ドル/ペソ	19.94	➡	19.0～20.5		
ロシア	ルーブル/円	1.50	➡	1.48～1.55	5月のロシアルーブルは、対ドル、対円でともに上昇した。ロシアのCPI上昇率は高水準で推移しており、ロシア中央銀行による更なる利上げ観測も強く、ルーブルは堅調に推移した。堅調な原油価格や6月の米ロ首脳会談への期待もルーブル買いにつながったとみられる。	6月のロシアルーブルは上昇すると予想。6月11日に予定されているロシア中央銀行政策会合に向けて、利上げを期待したルーブル買いが続く可能性が高い。世界の経済活動の正常化による原油需要の拡大も原油価格をサポートし、ルーブルにとってはポジティブになるだろう。
	ドル/ルーブル	73.18	➡	71.0～74.5		

© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

◆ 新興国通貨チャート



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

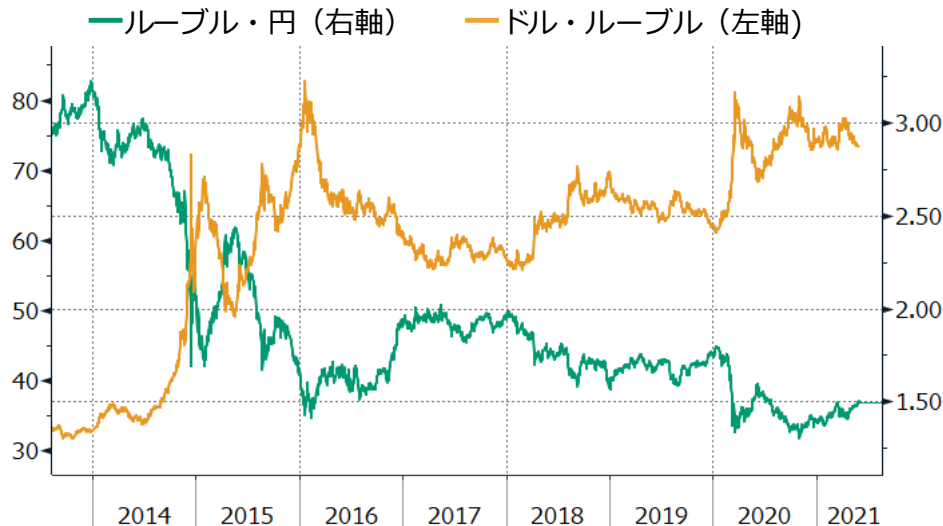
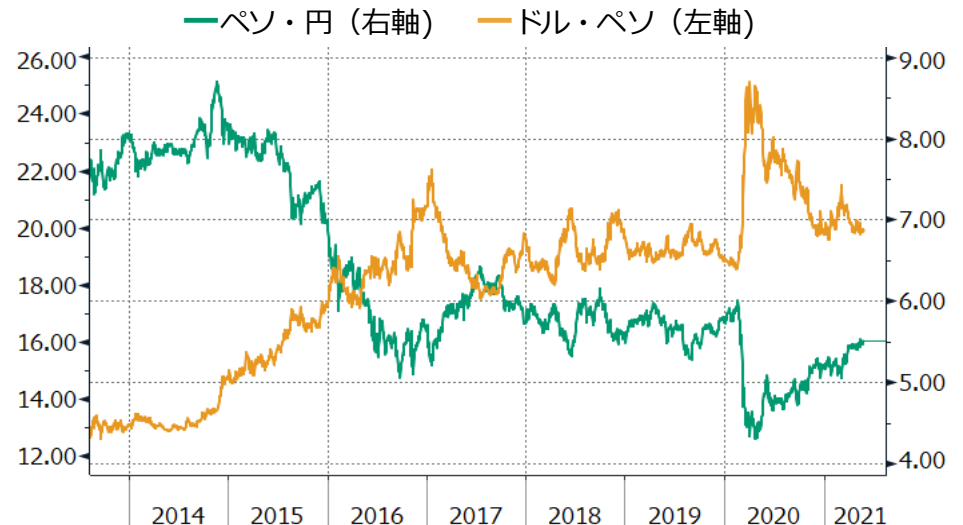
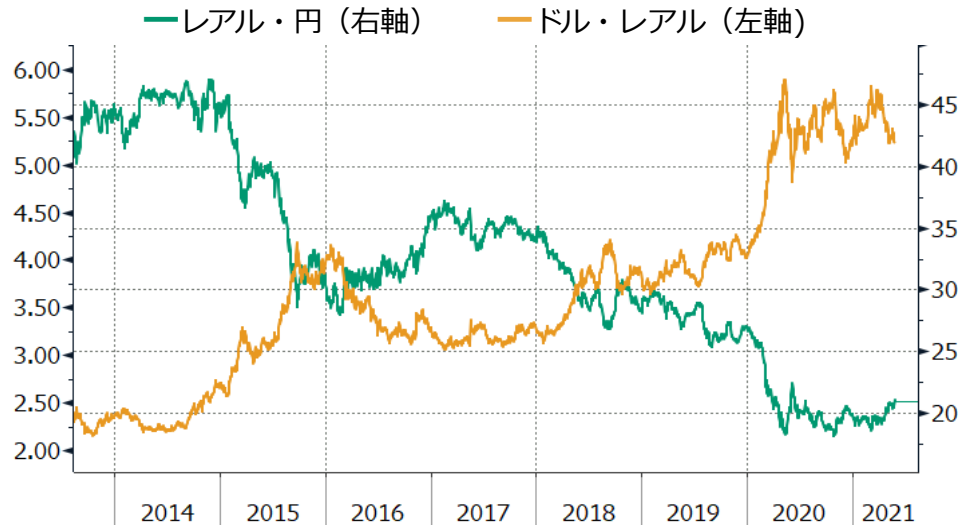
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

◆ 年間為替見通し

		2021年			2022年	ポイント
		6月	7～9月	10～12月	1～3月	
ドル円	レンジ	108.5～111.5	106～112	107～113	108～115	9月にかけてはややリスク回避の円高でレンジ切り下げを予想。年後半は米金利上昇につれドル一段高へ
	期末値	110	108	110	112	
ユーロドル	レンジ	1.20～1.23	1.14～1.21	1.12～1.19	1.11～1.18	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、米国や英国の中銀と比べてECBの緩和は長期化するとみられユーロの押下げ要因となろう。
	期末値	1.21	1.19	1.16	1.14	
ユーロ円	レンジ	130～135	125～133	124～133	124～133	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えたとみる。
	期末値	133	129	128	128	
ポンドドル	レンジ	1.38～1.44	1.31～1.43	1.30～1.42	1.29～1.40	6月に高値を付けたのちは年内は米金融政策面から徐々にドル高地合いに転じることでレンジを切り上げ。米中関係の悪化は元安リスクとして留意
	期末値	1.41	1.37	1.35	1.34	
ポンド円	レンジ	153～158	145～156	144～158	143～157	グローバルな景気回復期待から底堅い動きが継続。中国との貿易摩擦の先鋭化には注意。
	期末値	155	148	149	150	
ドル人民元	レンジ	6.28～6.48	6.20～6.50	6.40～6.80	6.35～6.75	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	6.30	6.40	6.50	6.45	
人民元円	レンジ	16.8～17.6	16.5～17.5	16.2～17.4	16.4～17.8	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	17.4	16.9	16.9	17.4	
豪ドル円	レンジ	83.5～87.5	80.0～88.0	82.0～90.0	82.0～90.0	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	86.0	86.0	87.0	88.0	
タイバーツ円	レンジ	3.37～3.55	3.30～3.70	3.30～3.75	3.40～3.80	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	3.50	3.40	3.50	3.57	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
6/1(火)	1-3月期法人企業統計調査	5月ISM製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会 (中) 5月製造業PMI
6/2(水)		米地区連銀経済報告	
6/3(木)	10年債入札	5月ADP雇用統計 5月ISM非製造業景況指数	
6/4(金)	4月家計調査	4月製造業受注 5月雇用統計	
6/6(日)			(中) 5月貿易統計
6/7(月)			
6/8(火)	1-3月期GDP (二次速報値) 30年債入札 4月毎月勤労統計 (速報) 5月景気ウォッチャー調査	3年債入札 4月貿易収支	(独) 6月ZEW景気指数
6/9(水)		10年債入札	(中) 5月CPI
6/10(木)	5月企業物価指数	30年債入札 5月CPI	(欧) ECB定例理事会
6/11(金)			



	日本	米国	その他
6/14(月)			
6/15(火)		20年債入札 5月PPI 5月小売売上高 6月NY連銀製造業景況指数	
6/16(水)	5月貿易統計	5月住宅着工・許可件数 FOMC (結果発表)	(中) 5月生産・小売・投資
6/17(木)		6月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
6/18(金)	5月消費者物価指数 黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)		
6/21(月)			
6/22(火)	5年債入札	2年債入札 5月中古住宅販売	
6/23(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4/26~27開催分)	5月新築住宅販売	(欧) 6月PMI (速報値)
6/24(木)	20年債入札	5年債入札	(英) BOE金融政策委員会 (独) 6月IFO企業景況感指数
6/25(金)		5月個人所得・消費支出	
6/28(月)			
6/29(火)	2年債入札 5月労働力調査	6月消費者信頼感指数	
6/30(水)	5月鉱工業生産 5月住宅着工件数	6月ADP雇用統計	(中) 6月PMI

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【5/6～5/13】

◎ 20年版国勢調査人口14.1億人

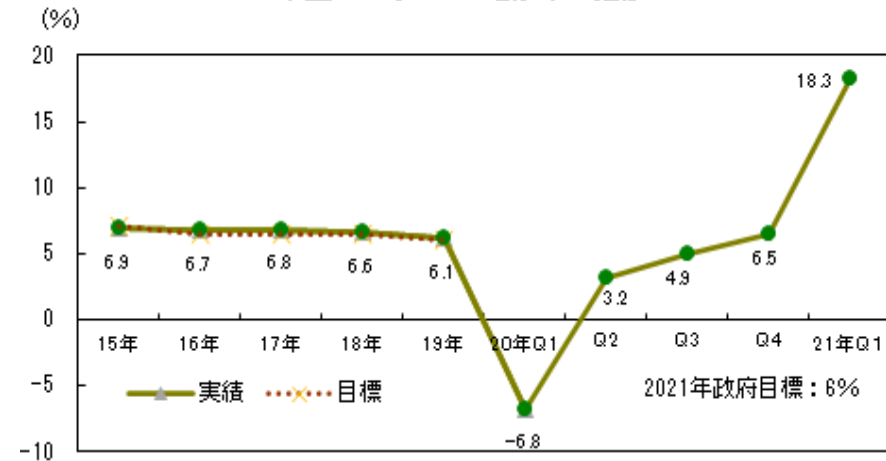
中国国家统计局は11日、10年に1度の国勢調査（第7回目）の結果を発表した。中国本土の人口は2020年11月1日時点で14億1,177万人で、平均年齢は38.8歳となった。人口は前回調査時から5.4%増加し、19年末と比べても1,100万人以上の増加だった。一方、60歳以上の人口が全体の18.70%を占め、高齢化が進んでいる現状も浮き彫りになっている。また、20年の出生率は4年連続減少したことも明らかになっており、高齢化が進行することで、早ければ27年に人口減少に転じると中国社会科学院が予測している。

【5/14～5/20】

◎ 高齢者サービス産業が拡大、2030年13兆元の市場規模になると予測

中国で高齢化が進みつつある中、高齢者サービス産業が拡大する流れにある。中国民生部によると、全国老齢施設は4万2,300カ所あり、ベッド数は430万床となっているが、入居している高齢者は215万人だけであった。今後は政府主導でサービス体系の整備に乗り出す予定であり、医療や介護、ヘルスケア、高齢者向け用品など幅広い分野での引き合いが高まる見込み。2030年には高齢者サービス産業の市場規模が13兆元（約220兆円）に達するとの見方がある。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【5/21 ~ 5/27】

◎中央5部門工業用商品価格に指導

中国国家発展改革委員会（発改委）、国務院、国有資産監督管理委員会（国資委）、国家市場監督管理総局（市場監管総局）、中国证券監督管理委員会（証管会）の5部門は23日、主要業界団体・企業に対し、不正な市場操作や偽りの価格情報の拡散などといった行為をなくし、正常な市場秩序を維持するよう指導した。また、商品価格推移を追跡するほか、先物とスポット市場への監督を強化する方針を示し、違法行為は厳しく取り締まることも強調した。中国では国内外の需要拡大と原料高を背景として、鋼材など工業用商品価格の高止まりが続いている。

【5/21 ~ 5/27】

◎発改委 消費拡大の注力分野を発表

中国国家発展改革委員会（発改委）は18日、「モノ消費の拡大」、「サービス消費の向上」、「新型消費の育成」、「都市部・農村部消費の拡大」、「消費環境の改善」という5つの面において消費拡大に注力すると明らかにした。モノ消費では、新車・中古車に関する管理・制限の変更や撤廃、自動車・家電・家具中古品の買い替え促進、VR等の新型電子製品の消費拡大を推進する。サービス消費では、観光、ヘルスケア、医療・介護サービスの消費拡大を促す。また都市部では国際消費センターとなる都市の育成や地域性消費センターの整備に注力するとしている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4
実質GDP成長率	%	3.2	-	-	4.9	-	-	6.5	-	-	18.3	-
消費者物価上昇率	%	2.5	2.7	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.4	0.9
都市部調査失業率	%	5.7	5.7	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2	-	5.5	5.3	5.1
輸出額	10億ドル	212.8	236.8	234.4	238.6	236.3	266.9	281.8	263.9	204.8	241.1	263.9
輸入額	10億ドル	168.1	176.4	177.1	203.0	178.7	192.2	204.8	199.7	167.5	227.5	221.1
経常収支	100万ドル	56,866	-	-	150,215	-	-	273,980	-	-	75,100	-
外貨準備高	10億ドル	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0	3,198.2
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.08	7.01	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47	6.46	6.51	6.52

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年6月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○国債購入が簡単に

第一財經（中国紙）によると、5月10日から19日まで、スマホの銀行アプリを通じて国債を購入することが可能になりました。（現段階では、対応可能な銀行は4行に限っているようです。）

ちなみに、中国では国債の購入は従来、銀行窓口、あるいは各銀行のネットバンキングを通じてしか購入できない状況でした。

報道によると、今回スマホアプリでも購入できる国債の発行規模は400億元（約6,795億円）で、固定金利3.8%（3年間）と固定金利3.97%（5年間）の2種類です。

投資者の購入が一段と手軽になり、特に若者などスマホに馴染んでいる世代における利用拡大が期待できると見込まれています。



中国 ビットコインの暗黒時代が到来？

中国の劉鶴副首相は21日に開かれた金融関連会議で、ビットコインのマイニングと取引を取り締まる方針を示しました。これはビットコインを含む仮想通貨への規制強化に向け、本格的な取締を進めていくものとして見られています。

内モンゴル自治区政府は26日、新たな仮想通貨マイニングに関する規制措置の草案を発表し、マイニングを実施する業者及び許可なくマイニング業者に電力を供給する行為に対する罰則など内容が盛り込まれました。

その後、仮想通貨取引やマイニングなど関連業務を手掛ける企業からは、中国からのアクセス制限が相次いで出ていると報道されています。

メディア（第一財經、中国紙）によると、世界における75%の仮想通貨マイニング活動は中国国内で行われており、マイニング施設は四川省や内モンゴル、新疆に集中している模様です。四川省にある一つのマイニング施設を例にすると、50台のマイニング設備（大型専用コンピューター）の年間電力消費量は約60万人民元（約1,020万円）です。四川省は水力発電所が多いのに対し、内モンゴルと新疆は石炭火力発電となるため、自然環境への負荷が非常に高く、カーボンニュートラルの推進計画を阻害する懸念も出ています。また、全世界における仮想通貨マイニングに関する年間電力消費量（2020年時点）は約133.69TWhで、スウェーデン1国分よりも多く、マレーシアに匹敵する水準まで達しているとCambridge Universityが研究データを発表しました。

中国における仮想通貨に関するマイニングと取引への規制は、これから世界範囲でどのような影響を及ぼすのか興味深いです。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年3月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は新型コロナウイルス感染第2波が発生以降、国内の景気は徐々に改善していた。個人消費指数は前年同月比1.8%増。非耐久財の消費が1.8%減少した一方、半耐久財の消費が6.0%増、耐久財の消費が13.3%増。民間投資指数は同5.7%上昇。機械・設備投資を中心とした資本財の輸入は引き続き拡大したが、建設部門の投資は低迷した。公共投資は減少に転じた。工業生産指数は同4.1%上昇した。

◆タイ商務省によると、2021年3月の輸出額は前年同月比8.5%増の242億2,245万米ドルと、単月ベースで過去最高となった。変動の激しい金、石油、武器を除いた輸出は同12.0%拡大した。新型コロナウイルスのワクチン普及、米国の大規模な財政刺激策による世界的な需要の回復等が挙げられる。農産物・加工品の輸出は前年同月比5.8%増、工業製品は同2.0%増。自動車・同部品、ゴム製品、プラスチックペレット、化学品等の輸出は好調だった。ハードディスク駆動装置（HDD）等は減少した。市場別では、中国向けの輸出額が35.4%増と最多。米国、日本、EU、オーストラリア、中南米、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けも拡大したが、東南アジア諸国連合、中東向け

は減少した。3月の輸入額は同14.1%増の235億1,165万米ドル。この結果、貿易収支は7億1,080万米ドルの黒字となった。一方、3月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル＝30.78パーツで、前月の29.99パーツ比パーツ安だった。

◆日本格付研究所（JCR）は26日、タイの外貨建長期発行体格付を「A-」、格付見通しを「安定的」、自国通貨建長期発行体格付を「A」、格付見通しを「安定的」で据え置いた。金融システムの安定性や輸出産業を中心とする強固な経済基盤等が評価された。

◆タイ商務省が発表した4月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比3.41%上昇し、14カ月ぶりに前年同月を上回った。食品・飲料は同0.40%上昇した。非食品は同5.34%上昇。政府による電気・水道料金への補助措置が終了したことや、燃料の大幅な値上がり等が挙げられる。また、今年1～4月のCPI平均値は前年同期比0.43%上昇した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4
実質GDP成長率	%	-12.1	-	-	-6.4	-	-	-4.2	-	-	-2.6	-
消費者物価上昇率	%	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1	3.4
失業率	%	1.0	2.2	1.9	1.8	2.1	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	-
輸出額	100万ドル	16,464	18,819	20,212	19,621	19,377	18,933	20,083	19,707	20,219	24,222	-
輸入額	100万ドル	14,785	15,476	15,863	17,391	17,330	18,880	19,119	19,909	20,212	23,512	-
経常収支	100万ドル	182	1,599	3,545	1,440	674	-1,294	-829	-673	-1,071	-806	-
外貨準備高	10億ドル	241.6	250.4	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8	253.9	245.5	250.4
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	31.2	31.4	31.2	31.4	31.3	30.5	30.1	30.0	30.0	30.8	31.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年6月号)

タイにおける自動車産業の動向

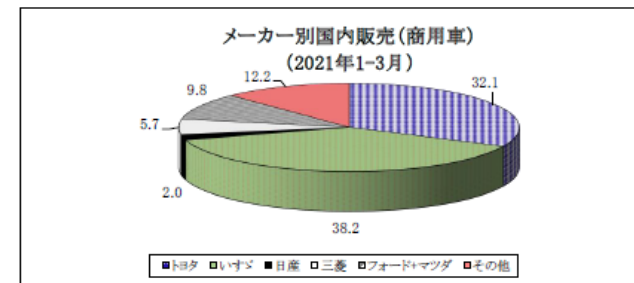
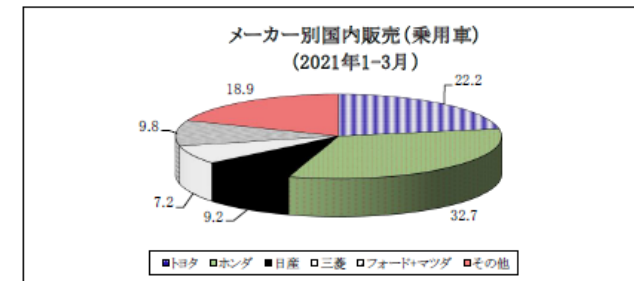
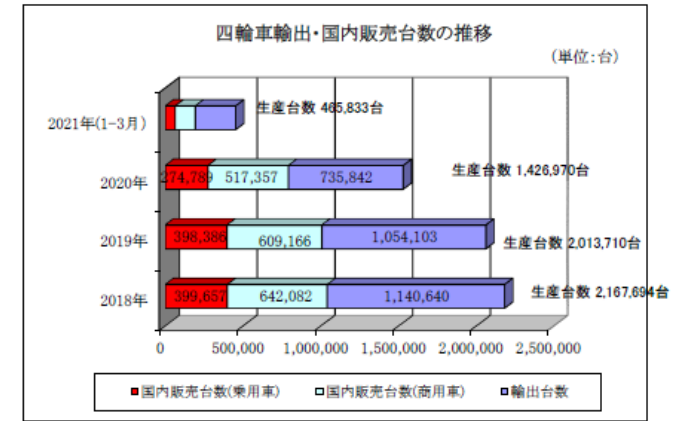
りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

			2018年	2019年	2020年	2021年 (1-3月)	前年同期比 (%)	3月
【台数】 (台)								
四輪	生産台数	乗用車	884,609	804,340	542,437	169,688	97.6	57,365
		商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	296,145	105.9	105,150
		合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	465,833	102.7	162,515
	国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	65,256	83.3	30,183
		商用車	642,082	609,166	517,357	128,881	105.5	49,786
		合計	1,041,739	1,007,552	792,146	194,137	97.0	79,969
輸出台数		1,140,640	1,054,103	735,842	258,108	103.1	104,506	
二輪	生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	516,360	108.4	182,359	
	国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	435,443	101.1	169,672	
	輸出台数	886,275	948,839	727,152	269,472	108.0	101,634	
【完成車輸出金額】 (百万バート)								
四輪		594,810	545,968	410,912	143,081	111.0	58,564	
二輪		61,654	69,933	85,802	24,687	118.0	8,027	

出所:トヨタ自動車

	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-3月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	3月	
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	14,509	77.8	22.2	5,380
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	41,422	110.5	32.1	16,896
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	55,931	99.6	28.8	22,276
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	49,248	116.2	38.2	17,523
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	49,248	116.2	25.4	17,523
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	21,347	89.1	32.7	8,953
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	3,612	76.5	2.8	1,342
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	24,959	87.0	12.9	10,295
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	5,996	69.0	9.2	2,643
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	2,561	53.2	2.0	1,189
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	8,557	63.4	4.4	3,832
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	4,697	65.8	7.2	2,066
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	7,388	75.1	5.7	3,057
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	12,085	71.2	6.2	5,123
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	18,707	93.8	28.7	11,141
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	24,650	110.0	19.2	9,779
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	43,357	102.4	22.3	20,920
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	65,256	83.3	100.0	30,183
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	128,881	105.5	100.0	49,786
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	194,137	97.0	100.0	79,969



◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。